

科目 No.	10
授業科目名 (英語表記)	異文化で役立つコミュニケーション技術論 Communication skills useful in different cultures
授業の実施場所	ご自宅等から PC 等を通じてご参加いただきます。
使用言語	日本語
単位数	1
開講時期	8月24日(月)～25日(火)(4コマ×2日) [09:00～16:10]
授業形態	講義・演習 Zoomによるオンライン授業 履修者には授業に接続するIDとパスワードをメールで連絡します。
受講者数	最少10人～最大20人
担当教員	国際医療福祉大学保健医療学部教授 谷口 敬道
開設大学	国際医療福祉大学
授業の内容	<p>この授業は、発達障^{がい}碍のリハビリテーションを専門とする担当教員が「障^{がい}碍児と他者との関係性の発達」を講義します。この関係性の発達とは、「コミュニケーションの原初のかたち」として鯨岡峻氏により理論化されたものです。母とほんの数か月の乳幼児との関係性をつぶさに観察した結果から導き出されたもので、私の臨床で最も重要な考えです。私自身は、学生を引率して中国、ミャンマー、オーストラリアなどで研修する機会がありますが、現代の学生に不足しているコミュニケーション技術と発達障^{がい}碍児と関わる様々な関与者に不足しているコミュニケーション技術に共通する部分があると気が付きました。そこで、本授業の一般目標を次のように定め、日本国内における多様性を認め合う時代、異文化において自分を認めさせる時代を生き抜く皆さんの役に立ちたいと思います。</p> <p>一般目標</p> <p>発達障^{がい}碍児と関与者の関係発達の視点を理解し、自分と他者との間の力動感に気が付き、自分自身のコミュニケーション技術を見直すきっかけにします。このことで、自ら発信するコミュニケーションに他者を巻き込む視点を身に着けます。</p>
教科書・参考書・ 教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な資料等は、適宜配付します。 ・参考書 原初的コミュニケーションの諸相 鯨岡峻著 (ミネルバ書房)
成績評価	・出席状況及び課題・試験に基づき評価します。
学修上の助言	この授業は、アクティブラーニングが基本です。授業中の積極的な発言を期待します。